

生きとれば、何とかなる

岐阜市立岐阜中央中学校 3 年

細野瑞己（ほその みずき）

「なぜいじめが起きてしまうのか。」

私と同じぐらいの年の子が、いじめを受けて命を絶ってしまうニュースを見るたび、そう思う。

私とそう年も変わらない子が、誰にも相談できず、たった一人で苦しい気持ちを抱え込み、命を絶ってしまう。そのことを考えるだけで、どれだけ残酷なことだろうと思う。

いじめというのは、人の身体と精神に苦痛を与え、命と心を苦しめている。「いじめっこ」はどんな気持ちでいじめをしているのだろう。「いじめられっこ」はどんな気持ちで耐えているのだろう。そのことを考えるだけで、どれだけ悲しいことだろうと思う。

そもそも、いじめは直接いじめをしている人だけが加害者ではない。いじめを見て見ぬ振りをする傍観者たちも、加害者の一人だ。なぜ、助けてあげられないのか。なぜ、一緒になって楽しんでいるのか、私には理解できない。

「だって自分もいじめられるかも。」そう考えて「だめだよ。」という勇気が出なかったのかもしれない。だけど、ほんの少しでもその勇気が出ていたら、助けることができたかもしれない。もしも私が「いじめられっこ」だったら、やっぱり誰にも相談できずに一人で抱え込んでしまうかもしれない。「親に心配かけたくない。」とか、「もっといじめがひどくなったらどうしよう。」とか、考えてしまうかもしれない。だけど、一度でも「助けて」と言えたなら助かる命があったかもしれない。そんないくつもの限りない「かもしれない」が、私の心をもやもやさせる。

「死なんくてもいい。生きとれば何とかなる」

いじめのニュースを見るたび、母が言う言葉だ。私はこの言葉に心から賛成している。

私は、何か悩んだ時はいつも、母に相談する。学校のこと、テニスのこと、いろんなことを母は真剣に聞いてくれる。その上で、「瑞己なら大丈夫やろ。」「瑞己が思うにすればいいんじゃない。」そういうアドバイスをしてくれる。軽い言葉だけど、私にとってその一言は、とても元気づけられ、支えとなる言葉だ。その言葉たちに助けられ、同じことで悩むことはなくなった。困った時は母のアドバイスを思い出し、自分で解決しようと思えるようになった。

生きとれば、何とかなる。どんなに悲しいことがあっても、きっとごはんはおいしいし温かい布団は気持ちいい。いっぱい食べて、ぐっすり寝れば、何だか明日よくなるような気がする。だけど、いじめられている時、中学生の自分たちが本当にそのように思えるのだろうか。大人と子供のメンタルは違う。「負けるもんか。」と思えるのは最初のうちで、「嫌だ」とか「怖い」と思い始め、そのうち何もかも諦めて、感情がなくなってしまって、そんなことを考えれば考えるほど怖くなる。

そんな時、私は母の言葉を思い出す。母のような前向きな考え方をやっぱり私は大切にしたい。「生きとれば、何とかなる」私は、ずっとこの言葉を大切にしたい。

これから先、いじめを0にすることは無理かもしれない。でも、減らしていくことはできる。例えば私の学校では、毎月1回いじめについて考える日がある。アンケートを取ったり先生と話したりして、心の状態を確かめる。小さなことかもしれない。でも、その活動を大切に、参加していくことがいじめを見つけ、解決することに繋がるはずだ。一人一人が「いじめはなくす」という意思をもつこと。それが大切だ。

私一人でいじめをなくすことはできない。でも、私にもできることがある。私だからできることがある。いじめをなくす。

「生きとれば、何とかなる」

私はこの言葉をずっと伝え続けていこうと思う。